

ダイフクPROFILE  
**2024**

会社概要 .....	1
社是・経営理念 .....	2
マテリアルハンドリングとは .....	3
沿革 .....	4
長期ビジョン・中期経営計画 .....	14
6つの事業とダイフクの強み .....	17
主要製品 .....	18
知的財産活動 .....	26
業績推移(連結) .....	27
株式情報 .....	32
サステナビリティ .....	34
情報開示 .....	40
コーポレートガバナンス .....	41
役員一覧 .....	44
グローバル展開 .....	48
国内拠点・海外支店 .....	49
海外現地法人 .....	50
業界情報 .....	52
日に新た館 .....	53

事業	マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー 物流ソリューションの提供など
商号	株式会社ダイフク (Daifuku Co., Ltd.)
設立	1937年5月20日
資本金	318億65百万円(2024年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 下代 博
従業員数	13,071人(グループ計、2023年度末)
本社所在地	大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383) (「JPX日経インデックス400構成銘柄」に選定)
格付	発行体格付 A [ポジティブ] 短期債格付 a-1 (格付投資情報センター(R&I))
2023年度業績	(2023年4月1日～2024年3月31日)
連結売上高	6,114億77百万円 海外売上高比率 67% サービス売上高比率 30%
営業利益	620億79百万円
年間配当金	1株当たり40円

(注)1 文中の金額:単位未満の端数を切り捨て  
2 文中のパーセンテージ:一部四捨五入し、合計が100%となるよう表記



本社(大阪)



東京本社

〈社是〉



Hini Arata

今日の「われ」は  
 昨日の「われ」にあらず  
 明日の「われ」は  
 今日の「われ」とどまるべからず

〈経営理念〉

モノを動かし、心を動かす。

ダイフクは、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」で、心豊かに生きられる社会を創造します。

私たちは、

- (1) 人と環境への負荷を最小化し、人権の尊重と責任あるものづくりを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。
- (2) 世界のお客さまと誠実に向き合い、革新的技術と最適最良のソリューションでスマート・ロジスティクスを実現します。
- (3) 多様性を尊重する自由闊達な企業風土のもと、一人ひとりが変革に挑戦します。同時に、経営基盤を強化し透明性の高いグローバル経営を行います。

〈グループ行動規範〉

基本姿勢

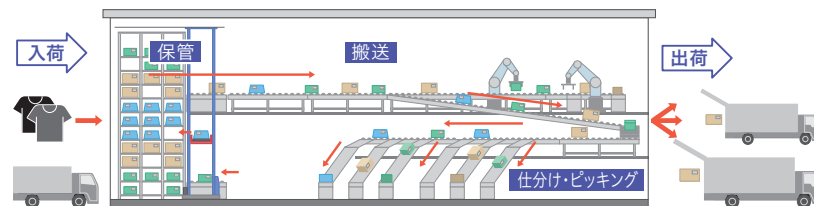
- ・私たちは、法令・社会規範や倫理に照らして、正しく行動します。
- ・私たちは、事業活動のあらゆる局面において、なによりも安全を優先します。
- ・私たちは、「日新」の気持ちを常に忘れず、たゆまぬ挑戦と変革を続けます。

マテリアルハンドリング(マテハン)とは、「モノを効率的に保管、搬送、仕分け・ピッキングする」ことです。それらの機能を持つ機械設備と、設備の動きを制御・管理するソフトウェアを組み合わせ、スムーズなモノの流れをつくる仕組み(自動化技術)を「マテハンシステム」と呼びます。

マテハンシステムを活用することで、重労働や反復作業を軽減でき、新たな価値を生み出すことができます。

ダイフクは、保管、搬送、仕分け・ピッキング用の主要製品を自社生産する世界有数のメーカーとして、またシステムインテグレーターとしてお客さまの多様なニーズにお応えしています。

配送センターのイメージ図



古代ギリシャ時代に発祥、機械学のベースとなる



動力を人力に頼っていた時代のマテハン  
 (巨石の運搬)

出典: 運搬機械の前衛 ダイフク

人類にとって、重い荷物をどう運ぶかは永遠のテーマです。

人間が定住を始めて以降、長く人力や牛馬の力に頼っていましたが、古代ギリシャ時代に数学や力学が盛んになる中で、「重いモノを動かす学問」として機械学が発祥しました。マテハンが、機械工学の源となったわけです。

その後、産業革命を通して蒸気・電気などのエネルギーを得て道具が設備に発展、20世紀後半にはコンピュータと結びついてより進歩しました。

事業環境	第2次世界大戦		焦土からの再建		高度成長期			
年	1937年	1939年	1944年	1947年	1957年	1963年	1964年	1966年
トピック	(株)坂口機械製作所として創業	御幣島工場(現大阪本社)を建設	総合商社の傘下入り、兼松機工(株)と改称	大福機工(株)に改称 <sup>※1</sup>	米国Webb社 <sup>※2</sup> と技術提携			わが国初の自動倉庫
製品	鍛圧機械 起重機			港湾荷役運搬機器	チェンコンベヤ (6ページ)	ポウリング マシン(6ページ)	無人搬送車	建屋一体型パレット自動倉庫 「ラックビルシステム」  [太字:現在も生産]
経営指針	1946年 契約は必ず守り、納期厳守。 製品に責任を持ち、アフターサービスを充実させる。 人材、特に技術者を集める。				ウェブコンベヤを担いで自動車と心しよう	社は「日新」を制定		
提供価値					自動車の大量生産	電機、化学などの工場自動化		
スローガン	荷役運搬機械武芸百般				マテハンの大福		無人への挑戦	

※1 大阪と福知山に工場があったこと、中国語でめでたい言葉であることなどから命名。  
 ※2 現社名: Daifuku Airport America Corporation

## ▶ 創業

1937年5月20日、ダイフクの前身である株式会社坂口機械製作所を創業。主に圧延機、エアハンマー、製鉄用の鍛圧機械(写真右下)や各種起重機を製造していました。  
 1939年、主力の工場を大阪市西淀川区御幣島に建設しました(現大阪本社)。



1939年ごろの御幣島工場



鍛圧機械

## ▶ 社は「日新」

今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず  
 明日の「われ」は今日の「われ」とどまるべからず

社は「日新(ひにあらた)」は、ダイフクの開拓、開発意欲に燃える企業精神が表現されており、社員の心の支え、行動原理になっています。  
 基になったのは、紀元前16世紀頃、中国最初の王朝・殷の創始者・湯王(とうおう)が自らを鼓舞した逸話です。湯王は、「苟日新、日日新、又日新」の言葉を洗面器に刻んで毎日三度唱えて自戒し、数百年続いた王朝の基礎を築きました。これは、「今日の行いは昨日よりも新しくよくなり、明日の行いは今日よりも新しくよくなるように修養に心がけねばならない」という意味です。

事業環境	高度成長期 レジャーブーム		ボウリング ブームの終えん	安定成長期へ	世界一の 自動車生産国に	「ロボットが ロボットを作る」			
年	1969年	1971年	1973年	1975年	1980年	1984年	1986年	1987年	1991年
トピック	ボウリングの利益で コンピュータや開発に 積極投資		わが国初の 冷凍自動倉庫	(株)コンテック設立 滋賀事業所の 操業開始	初の現地法人 を米国に	株式会社ダイフク に改称			
製品	オンライン制御 自動倉庫 バッテリーフォークリフト	ユニット式 パレット自動倉庫 (18ページ)	自動仕分け機 中・軽量棚 「テレリフト」(9ページ)	洗車機 (25ページ)	自動車工場用モノレール式 搬送システム「ラムラン」 半導体生産ライン向け搬送・ 保管システム (22ページ)	デジタル表示式 ピッキングシステム (19ページ)	ケース自動倉庫 (18ページ)	チェンレス搬送 システム (23ページ)	ローコンベヤ [太字: 現在も生産]
経営 指針	成長と充実		省力化は第3次産業でも 必要である						
提供価値	消費生活レベル向上		スーパーや図書館の自動化		半導体工場の自動化				
スローガン	FA*のダイフク				Advanced FA*				

※FA: Factory Automation



国内初の乗用車専用工場に納入された  
コンベヤシステム (5ページ)



国産のボウリングマシン1号機 (5ページ)

ダイフクは、第2次世界大戦後の混乱期、高度成長から安定成長への転換期で大きな試練を乗り越えてきました。

1957年、創業製品のクレーンや製鉄機械に見切りをつけ、1960年度には米国 Jervis B. Webb Company (Webb社)が開発したチェンコンベヤを中心とする体制を確立しました。Webb社は1919年創業で、米国のモータリゼーションを支えてきた老舗企業。後に当社グループの一員となります。

1972年度、ボウリングマシンが売上高の72%に達しました。ボウリングマシンは構造的にマテハンの応用で、コンベヤなどの受注品と異なり、計画生産品であることが経営上の魅力。ボウリングブームに乗って急成長しましたが、ブーム終息後は、本来のマテハンシステムに特化した事業活動に回帰しています。



事業環境	アジア経済危機		インターネットの普及		グローバル化	リーマン・ショック	東日本大震災	
年	1994年		1995年	1999年	2002年	2007年	2008年	2011年
トピック	日に新館オープン (53ページ) ISO 9001認証始まる		韓国にCFI※1を 設立	滋賀・小牧事業所が ISO 14001認証を取得		滋賀事業所を世界最大級のマテハン生産拠点に 米国Webb社を完全子会社化 世界の生産拠点で ISO 9001と14001を取得		北米事業統括会社 (現DNA※2)を設立
製品	小物高速自動仕分け機 世界初の非接触給電システム		自動搬送式納骨堂 (10ページ)	第5世代液晶パネル 搬送システム		自動車塗装システム 「E-DIP」	高能力ケース自動倉庫 「DUOSYS」	世界最速の空港手荷物 搬送システム(24ページ) 高能力デジタルピッキングシステム 「eye-navi」 [太字:現在も生産]
経営指針	広く国内外に、最適・最良 の MATERIAL HANDLING システム・機器および電子 機器を提供し、産業界の 発展に貢献する。		世界最適地生産 最適地調達			質、量ともに世界No.1の マテハン企業へ		「5つの新しい」に挑戦 (市場・製品・生産方法・ グローバルパートナー・事業)
提供価値			環境にやさしい、安全で、安心な商品・システム					
スローガン	Logistics Navigator			IT革命・物流革命に 挑戦するダイフク		Material Handling and Beyond モノを動かす。心を動かす。		

※1 CFI: Clean Factomation, Inc.

※2 DNA: Daifuku North America, Inc.

## ▶ 時代のニーズに即した顧客・業種別売上高

(億円、( )内は構成比)

年度	1996※	2005	2009	2013
業種	FAの高度化	液晶の普及	航空旅客の増大	eコマース本格化
自動車・自動車部品	257(20%)	542(27%)	237(15%)	589(24%)
エレクトロニクス	242(19%)	637(32%)	456(30%)	593(25%)
その他製造業	377(30%)	263(13%)	264(17%)	332(14%)
商業・小売	145(12%)	304(16%)	280(18%)	459(19%)
運輸・倉庫	94( 7%)	141( 7%)	92( 6%)	84( 3%)
空港	- ( - )	- ( - )	104( 7%)	205( 9%)
その他	156(12%)	98( 5%)	106( 7%)	153( 6%)
合計	1,273	1,988	1,542	2,418

※1996年度のみ単体売上高

ダイフクは、ノウハウや技術を蓄積、ミックスし、新しい産業分野に応用することで、イノベーションを継続しています。

1980年代、半導体工場のクリーンルーム向け搬送システムの需要が急増。中核機種「天井走行モノレール(写真上)」、病院のカルテや検体、図書館の蔵書、空港の書類などの搬送に使われる「テレビフト」(写真下)を発展させたものです。

2000年代には、液晶パネル工場向けのシステムを、また2007年には、M&Aで空港向けシステムを加えました。

近年は、商業・小売や運輸・倉庫分野の売上高が年々拡大。コンビニエンスストア、総合スーパー、医薬卸、百円ショップ、eコマースなど、幅広い流通形態に合ったシステムを開発しています。



事業環境	中国のGDPが世界2位に 新興国生活水準の向上	ネット通販の普及	物流現場の人手不足				
年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
トピック	中国にDSA <sup>※1</sup> を設立	米国Wynright社 <sup>※2</sup> を完全子会社化 滋賀県最大級メガソーラー完成	国連グローバルコンパクトに署名			資本金318億円に	ファーストリテイリング社と「戦略的グローバルパートナーシップ」締結
製品	調剤監査支援システム(写真1) 半導体工場向け窒素パージシステム 高能カケース荷揃えシステム(18ページ)	エリア管理システム 高能カケース自動倉庫 「スマートストックカークアトロ」 部品物流向け一時保管・仕分けシステム(23ページ)		電動フォークリフト向け非接触充電システム(写真2)	第10.5世代液晶生産ライン向けシステム 「クリーンストッカー」		ドライブスルー型トラックステーション「TRTS(トータス)」 [太字:現在も生産]
経営指針	“オンリーワン”を生み出そう 安全はトッププライオリティ。 安全文化を世界に広げる			真の世界No.1 マテハングローバル企業へ			
提供価値	お客さまの競争優位性を押し上げる			お客さまが求めるスマート・ロジスティクスの提供			
スローガン	Always an Edge Ahead						

※1 DSA: Daifuku (Suzhou) Cleanroom Automation Co., Ltd.

※2 現社名: Daifuku Intralogistics America Corporation

## ▶ 幅広い分野で活躍するマテハン

ダイフクは、これまでに培ったノウハウを活用し、世界の幅広い産業界にさまざまなマテハンシステム・機器を提供しています。

### 寺院・霊園

都市部の墓地不足を背景に、多様なモデルを開発・提供しています。



自動搬送式納骨堂

### 調剤薬局

画像認識と重量検品を組み合わせ、投薬ミスを防止します。



(写真1) 調剤監査支援システム「audit」

### 工事・物流現場

バッテリー駆動の電動車両への充電を非接触で行います。



(写真2) 電動フォークリフト向け非接触充電システム「D-PAD」

### ダイフク公式チャンネル「D-Tube!」

当社公式のYouTubeチャンネルで、さまざまな製品や導入事例の動画をご覧いただけます。

[www.youtube.com/user/daifukuchannel](http://www.youtube.com/user/daifukuchannel)

事業環境	新型コロナウイルス感染症拡大											
年	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
トピック	インドVega社※を完全子会社化 空港事業向けソフトウェア 関連企業2社を子会社化 TCFD提言への支持を表明				(株)コンテックを完全子会社化 日に新たな館がリニューアルオープン 米国空港向けシステムの 新工場が稼働開始				中国、韓国の生産能力を増強 ユーロ円CBを発行 滋賀事業所の 第二高層棟が完成 決算期を変更(15ページ)			
製品	超高密度パレット 自動倉庫「シャトルラックD <sup>3</sup> 」				パレット系無人搬送台車 「ソーティングトランスファーロボット-L」 搬送ロボット式ピースピッキングシステム 「ロボットビークルシステム」				ピース搬送システム 「ソーティングトランスファーロボット-S」 [太字:現在も生産]			
経営指針	スピード感のある改革		グローバル競争力の強化									
提供価値	持続可能な社会の実現に貢献											
スローガン	Automation that Inspires											

※現社名: Daifuku Intralogistics India Private Limited

## ▶最新のトピックス

### 中国、韓国の生産能力を増強

2023年7月から9月にかけて、半導体生産ライン向けシステムの2工場が稼働開始しました。中国では、今後の半導体市場拡大を見据えた新工場を建設し、ショールームも備えブランドイメージの向上を図っています。韓国では、事務所や工場面積拡張のため敷地内で建て替えを行いました。

#### 大福自動搬送設備(蘇州)有限公司(DSA)

所在地	中国 江蘇省蘇州市
投資金額	約50億円



#### Clean Factomation, Inc.

所在地	韓国 忠清南道牙山市
投資金額	約27億円



### ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債(ユーロ円CB)を発行

2023年9月、2種類のユーロ円CBを発行しました。2028年満期および2030年満期の新株予約権付社債です。本社債の発行による手取金約600億円の用途は以下の通りです。

#### 約400億円：設備投資

- 滋賀事業所における一般製造業・流通業向けシステムおよび半導体・液晶生産ライン向けシステム等を中心とした工場生産設備の維持更新や増強(約330億円)
- 米国やインドにある一般製造業・流通業向けシステムの工場生産設備の増強(約70億円)

#### 約200億円：自己株式取得(実施済)

- 資本効率の改善および株式数削減を通じた1株当たり株式価値の向上
- 本ユーロ円CBの発行に伴う当社株式需給への短期的な影響の緩和

#### 【投資予定拠点】

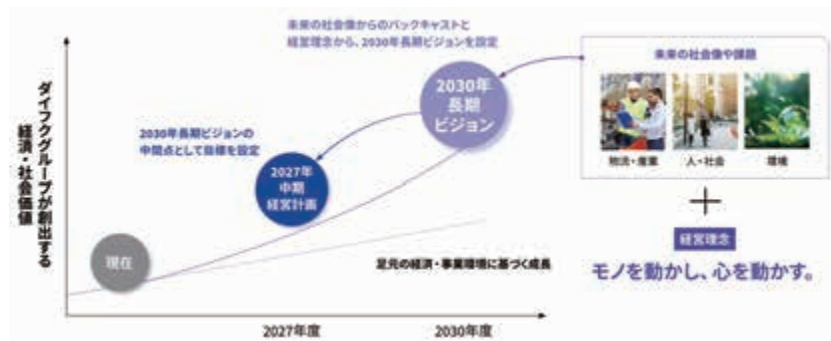
日本	滋賀事業所
米国	Daifuku Intralogistics America Corporation
インド	Daifuku Intralogistics India Private Limited



## ▶ 長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」および「2027年中期経営計画」コンセプト

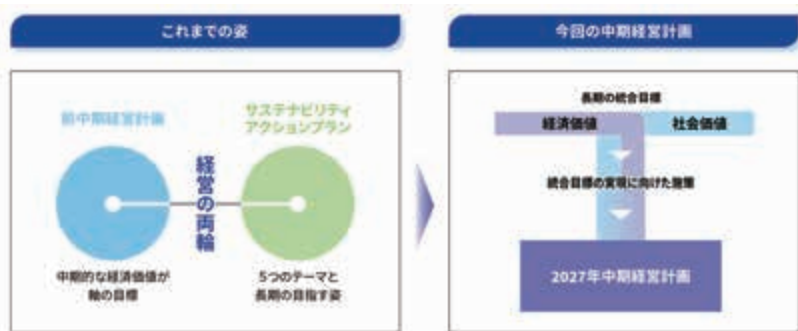
### 短期志向から長期・バックキャスト志向へ

これまで、足元の経済・事業環境に基づく中期経営計画を策定の上、事業の成長を実現してきました。今回は未来の社会像や課題を想起し、まず2030年のありたい姿を長期ビジョンとして設定した上で、中間点である2027年中期経営計画を策定しました。



### 経済価値と社会価値の両立へ

これまで経済価値を追求する「中期経営計画」と社会価値を追求する「サステナビリティアクションプラン」を経営の両輪として推進してきました。2027年中期経営計画では、経済価値と社会価値双方の視点を踏まえた統合目標を設定し、統合目標の実現に向けた施策・ロードマップを策定しました。

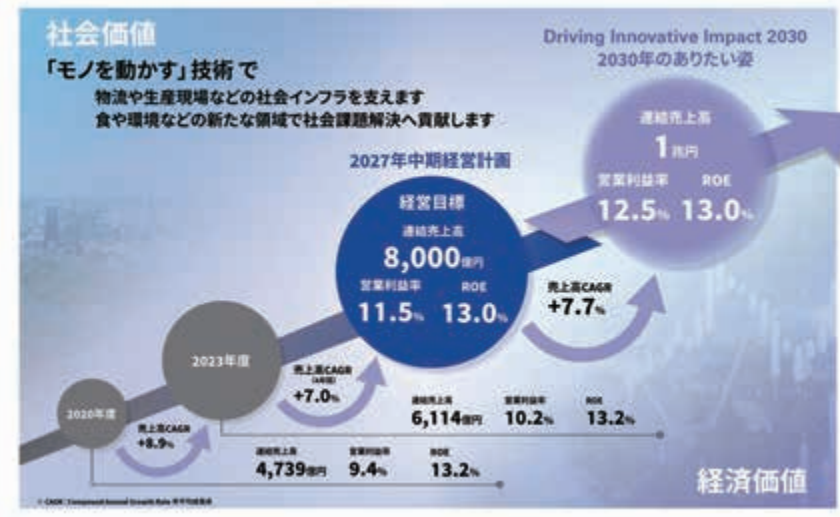


## 長期ビジョン Driving Innovative Impact 2030

『未来を見据えた新たな発想での取り組みを強化し、ステークホルダーへ革新的な影響を生み出すことにより、目指すべき経済・社会価値を実現する』との強い想いを込めています。

### 2027年中期経営計画

### ▶ ありたい姿・目標



### 決算期の変更について

グローバルな事業運営の効率化および経営情報の適時・的確な開示により経営の透明性の向上を図るため、以下のとおり決算期を変更することといたしました。それに伴い、「2027年中期経営計画」は3年9カ月となります。

2024年				2025年			
1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
2023年度		2024年度		2025年度			

2024年度(2024年12月期)は決算期変更の経過期間となるため、国内は2024年4月1日から2024年12月31日までの9カ月、海外は2024年1月1日から2024年12月31日までの12カ月が事業年度となります。

## ▶ 事業戦略

### インフラロジスティクス

事業規模拡大に向けて、完全無人化ソリューションの提供、およびFAの新領域開拓、次世代事業への挑戦を続けます。また、先端技術の活用による生産性の革新を図り、海外においては最適生産・最適調達を推進し、収益性を向上します。

- ・事業領域の拡大
- ・グローバルビジネスの収益性向上
- ・顧客からみた品質の追及
- ・先端技術を活用した生産性革新

### クリーンルーム

先端技術を取り入れたシステム開発を行い、市場の拡大、新領域へ挑戦し、半導体工場のさらなる生産効率の向上を実現するため、絶えず進化することを目指します。

- ・顧客の価値創造
- ・既存領域の深化
- ・新領域・次世代事業への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

### オートモーティブ

持続可能なモビリティ社会の実現に向け、次世代自動化システムを提供します。グローバルで変容著しいモビリティ市場において、さまざまなニーズに適應する自動化システムを提供することで、新たな価値を創生します。

- ・グローバルでのさらなる受注拡大
- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・成長分野へ経営資源の積極投入

### エアポート

引き続き、北米での事業拡大を行うとともに、同じく需要拡大が見込まれるアジア・欧州地域での事業基盤確立に取り組みます。また、搬送における新技術投入に加えて、空港におけるデジタル分野での需要開拓に取り組みます。

- ・顧客への付加価値の提供
- ・デジタル分野での開発と販売強化
- ・グローバルでの収益性改善

### オートウォッシュ

既存事業の強化と新領域への進出で洗浄事業の拡大を目指します。

- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

### 電子機器

事業規模拡大に向けて、日本・北米・アジアを中心に新領域で事業展開を行い、グローバルでの成長を目指します。

- ・グローバル市場での成長
- ・ビジネスの収益性向上



インフラロジスティクス  
一般製造業・  
流通業向けシステム



クリーンルーム  
半導体・液晶生産  
ライン向けシステム



オートモーティブ  
自動車生産  
ライン向けシステム



エアポート  
空港向けシステム



オートウォッシュ  
洗車機・関連商品



電子機器

### トータルサポート体制

ダイフクの強みは、コンサルティング、システム構築から、製造、工事、長期安定稼働を支えるアフターサービス、リニューアルまで、トータルサポート体制を構築していることです。

マテリアルハンドリングシステムを構成する主要な製品を自社で開発、生産することにより、世界に広がるお客さまにご満足いただける最適・最良のソリューションを提供し、お客さまの競争優位性を押し上げています。



## ▶ イントラロジスティクス

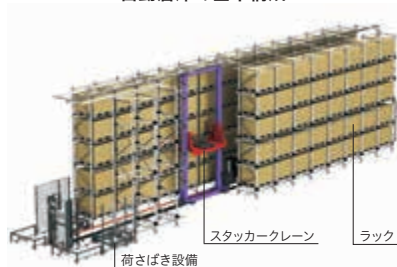
### 一般製造業・流通業向けシステム

eコマースを含む小売・卸、運輸・倉庫などの流通分野を柱に、食品、薬品・化学、機械など幅広い業種にまたがっています。アジア・北米への海外拡充を推進中です。

### 自動倉庫・荷揃えシステム

主要製品の自動倉庫は保管する製品の大きさ・重量によってパレット系、ケース系に分かれます。荷物の入出庫は、スタッカークレーンにより行います。

自動倉庫の基本構成



ユニット式パレット自動倉庫  
「コンパクトシステム」

### 自動倉庫導入のメリット

- ▶ 省人・省力化
- ▶ 在庫管理精度・出荷スピードの向上
- ▶ 保管スペースの有効活用
- ▶ 多様な環境に対応（冷凍・防爆）

### ケース自動倉庫

#### 「ファインストッカー」

少量多品種の荷物を入庫、保管、出庫する自動倉庫。「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」スピーディーかつ正確に供給でき、先入れ先出し管理、ロット指定出庫も可能です。



### 高能カケース荷揃えシステム

#### 「シャトルラック M」

スタッカークレーンに代わり、移載機能付き台車（シャトル）と昇降機（リフト）によって荷物の一時保管だけでなく、仕分け、順列出庫も行います。



### デジタルピッキングシステム

#### 「デジタルピックシステム」

デジタル表示器の指示に従って、商品を摘み取っていくピースピッキングシステム。作業者の担当範囲が限定でき、紙のリスト方式に比べ作業効率が向上します。近年はロボットによるピッキングも採用されています。



### 高速仕分けシステム

#### 「クロスベルトソーター」

連結された台車がレール上を走行しながら荷物を仕分けるシステム。通販の物流センターや貨物ターミナルなどで、段ボールケース、コンテナ、袋物までさまざまなサイズや形状の荷物に対応可能です。



### ラックシステム

#### 「移動ラック」

棚の移動により、保管スペースを有効活用でき、固定棚に比べて約2倍の格納効果が得られます。貸倉庫にも設置可能なレールレス方式や冷凍・冷蔵用、重量物用、長尺物用など、豊富なバリエーションがあります。



物流ソリューションサイト

[www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics](http://www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics)

業種別ソリューション、製品情報、導入プロセス、アフターサービスを分かりやすく紹介しています。



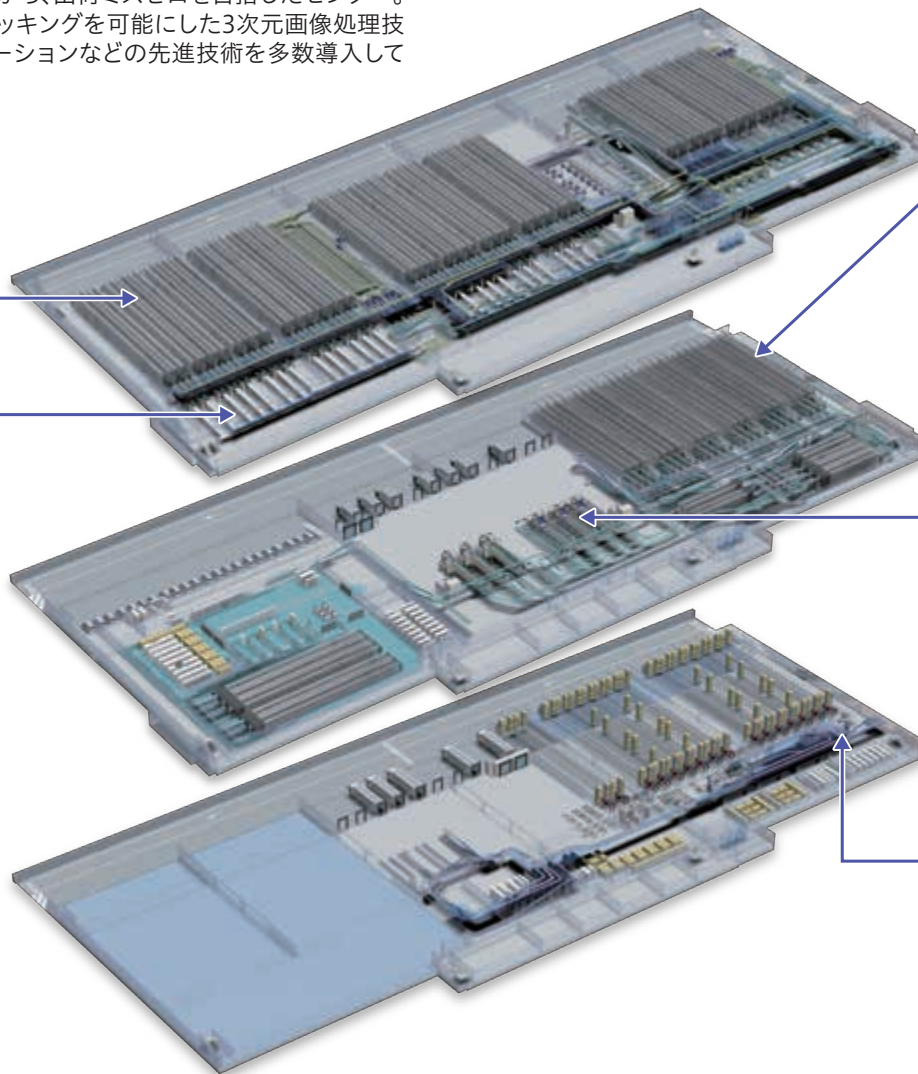
[ 納入事例 ]

先進技術を活用した最新物流センター

少子高齢化による労働力不足を見据えながら、出荷ミスゼロを目指したセンター。ロボットによる多品種・少量品のピッキングを可能にした3次元画像処理技術をはじめ、AIを活用した積付シミュレーションなどの先進技術を多数導入しています。



**ピッキング自動倉庫**  
ピッキングを行うロボットにタイムリーに商品を供給



**ケース自動倉庫**  
多種多様なサイズの段ボールケースを保管



**ケース積付ロボット**  
さまざまな荷姿のケースをスピーディーに積付け



**ピッキングロボット**  
サイズや重さが異なるピース品を正確にピッキング

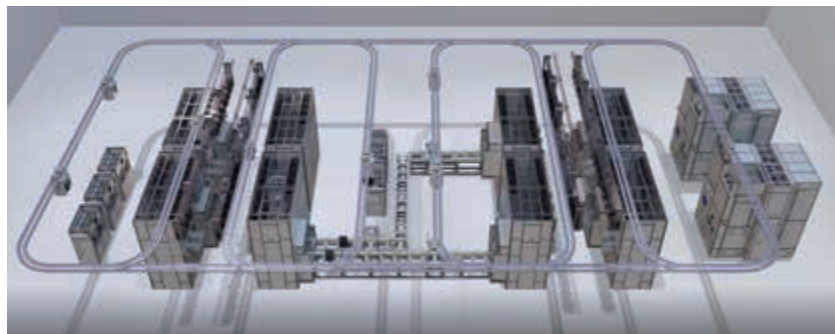


**デパレタイズロボット**  
自動倉庫から出庫されたパレット上の段ボールケースをピッキング

## ▶ クリーンルーム

### 半導体・液晶生産ライン向けシステム

半導体・液晶・有機EL工場にクリーンルーム専用の保管・搬送システムを提供しています。高度な技術が必要とされるため高いシェアを誇り、売上高の約9割がアジア・北米など海外です。半導体工場の走行レールは総延長10kmにおよび、数百台以上のウエハ搬送ビークルが24時間365日稼働しています。



### クリーンルーム用搬送システム 「クリーンウェイ」

密閉型カセットに格納したウエハを天井走行台車が数百におよぶ複雑な工程を搬送します。摩耗粉が発生しない非接触給電技術を活用しています。



### クリーンルーム用保管システム 「クリーンストッカー」

半導体生産工程で、仕掛品を一時保管する自動倉庫。半導体の微細化加工に対応した、ウエハの劣化を防ぐ「窒素パージシステム」も開発しました。



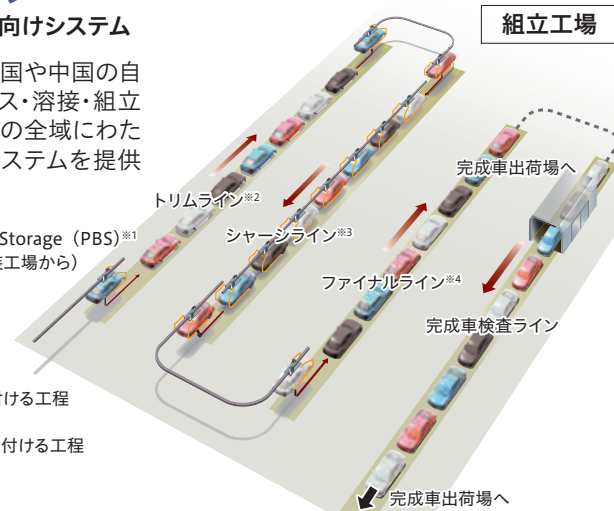
クリーンルーム事業部門サイト  
[www.daifuku.com/pro/cr/jp](http://www.daifuku.com/pro/cr/jp)  
 半導体・液晶生産ライン向けシステムの各種製品・システムの動画を紹介しています。

## ▶ オートモーティブ

### 自動車生産ライン向けシステム

日系企業を中心に米国や中国の自動車メーカーにプレス・溶接・組立など自動車生産工程の全域にわたる、自動化・省人化システムを提供しています。

- ※1 PBS：  
塗装済み車体の保管
- ※2 トリムライン：  
各種部品を車体に取り付ける工程
- ※3 シャーシライン：  
足回り部品を車体に取り付ける工程
- ※4 ファイナルライン：  
完成車に仕上げる工程



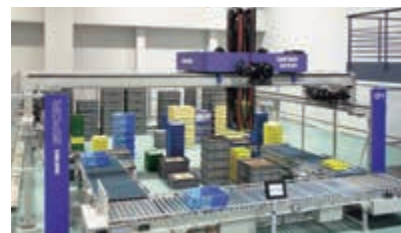
### チェンレス搬送システム 「フレキシブルドライブシステム」

低速走行や振動の少ない安定した搬送が可能で、組立・加工ラインなどに最適な搬送システム。



### 部品物流向け一時保管・仕分けシステム 「SPDR(スパイダー)」

自動車組立用の部品が入った多様な種類のケースの入出庫・仕分けを自動化することができるシステム。生産計画に応じたタイムリーな供給ができます。



生産ライン最適化支援サービス特設サイト  
[www.daifuku.com/pro/aps/jp](http://www.daifuku.com/pro/aps/jp)  
 自動車関連をはじめとする幅広い分野を対象に紹介しています。



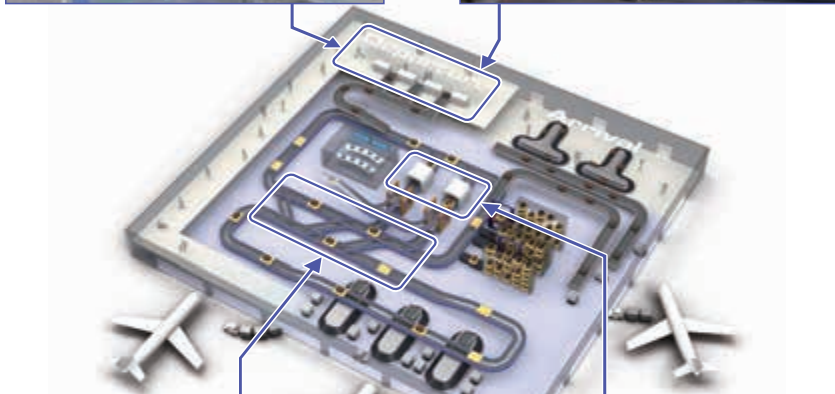
▶ **エアポート**  
**空港向けシステム**

空港建屋内の手荷物搬送・仕分けシステムをはじめ、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティシステム、空港内設備監視など、幅広いソリューションを世界の空港に提供しています。

**セルフ手荷物チェックインシステム**



**空港情報管理システム**



**手荷物搬送・仕分けシステム**



**無人搬送式手荷物検査システム**

エアポート事業サイト  
[www.daifukuattec.com](http://www.daifukuattec.com) (英文)

▶ **オートウォッシュ**  
**洗車機・関連商品**

主な製品は洗車機で、物流システムで培ったダイフクのモノづくりの技術・品質を応用しています。日本と韓国でトップシェアです。

**洗車機**

節水・静音タイプの門型洗車機やコンベヤ技術を応用した連続洗車機から、ドライブスルー機、トラックやバス、セミトレーラー用の大型洗車機など、さまざまな洗車機と洗車関連用品を提供。ガソリンスタンド、カーディーラー・整備工場、運送会社、コイン洗車場などで利用されています。



洗車機・関連商品の販売会社 ダイフクプラスモアのサイト  
[www.daifuku-carwash.jp](http://www.daifuku-carwash.jp)

▶ **電子機器(株式会社コンテック)**

株式会社コンテックが産業用コンピュータや、計測制御システム・ネットワーク関連製品などを開発・製造・販売。さらにIoT機器・ソリューション事業を展開しています。

**産業用コンピュータ製品**

高い信頼性、耐久性が求められるFA環境に対応した産業用コンピュータ。近年ではデジタルサイネージ、医療、エネルギー市場など、ICT (Information and Communication Technology) 化が進められている成長市場へFAで培った技術を応用し、あらゆる産業に役立つ製品を開発し、供給しています。



コンテックサイト  
[www.contec.com/jp](http://www.contec.com/jp)

### 知的財産の活用

2024年度を初年度とする2027年中期経営計画では、成長を支える仕組みの構築をテーマの一つとして掲げています。これを実現するため、知的財産の権利化促進および保有知的財産権の利活用推進を施策として定めています。

2023年度のイノベーション投資額は170億円でした。2024年3月末時点の特許登録件数(累計)は4,378件です。

### ダイフクにおける発明考案の推進

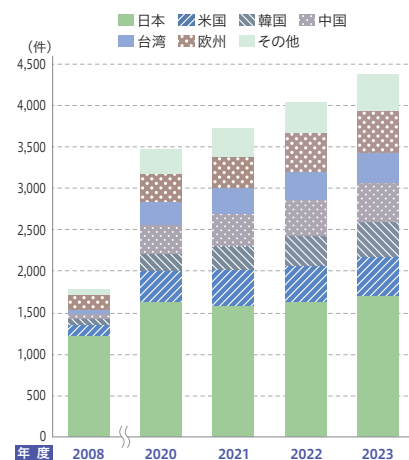
当社では、「発明考案の規程」を定めており、新規開発製品を中心に積極的な特許出願、権利化を図っています。特許は、出願してから登録されるまでに通常4～6年かかるため、出願特許の中から極めて優秀な発明考案に対して、「ダイフク発明大賞・発明賞」としてタイムリーな表彰を全社的に行っています。

2023年度は、ダイフク発明大賞に1件、ダイフク発明賞に8件が選定されました。

### 海外の特許登録件数

近年は海外への特許出願数も増加傾向にあり、世界30カ国以上で特許を保有しています。特に、中国、韓国、台湾といったアジア圏での特許登録件数が増えています。

地域別特許登録件数推移



### 財務指標

(億円、網かけは過去最高値)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
受注高	4,831	4,510	5,890	7,374	6,203
受注残	3,979	3,750	4,518	5,874	5,969
売上高	4,436	4,739	5,122	6,019	6,114
営業利益	404	445	502	588	620
営業利益率(%)	9.1	9.4	9.8	9.8	10.2
経常利益	409	458	512	597	642
親会社株主に帰属する当期純利益	280	323	358	412	454
1株当たり当期純利益(円)	74	85	94	109	121
1株当たり配当金(円)*	25	26.7	30	36.7	40
総資産	4,108	4,454	4,833	5,515	6,461
純資産	2,373	2,620	2,920	3,323	3,587
ROA(%)	6.8	7.6	7.7	8.0	7.6
ROE(%)	12.4	13.2	13.1	13.2	13.2
自己資本比率(%)	56.7	57.7	60.2	60.2	55.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	137	382	566	200	371
投資活動によるキャッシュ・フロー	-147	-61	-98	-118	-295
財務活動によるキャッシュ・フロー	-183	-89	-275	-301	227
フリー・キャッシュ・フロー	-10	320	468	81	75
従業員数(人) (うち、海外現地法人)	10,863 (7,312)	11,697 (8,045)	12,436 (8,643)	13,020 (9,059)	13,071 (8,999)
設備投資額	132	74	115	168	214
減価償却費	56	64	73	85	95
研究開発費	89	91	107	104	112
有利子負債	334	351	263	114	706

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。2019年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

\* 2023年度以前の配当額は、株式分割(2023年4月1日、1株▶3株)からさかのぼって便宜的に計算したものです。

## ▶ セグメント別業績推移

報告セグメント	概要
ダイフク	マテリアルハンドリングシステム・機器、洗濯機などの製造販売の中核
コンテックグループ	産業用パソコン・インターフェイスボードなどの製造販売
DNAグループ	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">北米事業 統括会社 Daifuku North America, Inc.</div> <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-bottom: 5px;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">イントラロジスティクス</span>            Daifuku Intralogistics America Corporation         </li> <li style="margin-bottom: 5px;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">クリーンルーム</span>            Daifuku Cleanroom America Corporation         </li> <li style="margin-bottom: 5px;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">オートモーティブ</span>            Daifuku Automotive America Corporation         </li> <li style="margin-bottom: 5px;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">エアポート</span>            Daifuku Airport America Corporation         </li> </ul> </div>
CFI	韓国における半導体・液晶工場向け搬送・保管システムの販売、製造、工事、サービス
DSA	中国における半導体・液晶工場向け搬送システムの販売、製造、工事、サービス
その他	上記以外の国内および海外子会社

(億円)

	年度	2019	2020	2021	2022	2023
受注高	ダイフク	2,183	1,841	2,624	2,931	2,136
	コンテック	168	153	196	192	197
	DNA	1,367	1,194	1,351	2,110	2,020
	CFI	238	310	367	481	248
	DSA	140	108	264	406	466
	その他	733	903	1,085	1,251	1,133
	計	4,831	4,510	5,890	7,374	6,203
売上高	ダイフク	2,044	1,993	2,250	2,388	2,388
	コンテック	163	162	157	186	190
	DNA	1,022	1,371	1,404	1,587	1,757
	CFI	326	305	286	426	306
	DSA	152	140	156	251	300
	その他	787	755	892	1,157	1,186
	連結調整等	—	—	-25	20	-16
計	4,436	4,739	5,122	6,019	6,114	
セグメント利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	ダイフク	186	260	286	340	332
	コンテック	16	11	12	9	8
	DNA	62	60	75	61	111
	CFI	25	27	20	29	18
	DSA	3	4	31	19	54
	その他	21	18	6	36	8
	連結調整等	—	—	-73	-85	-80
計	280	323	358	412	454	

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用

## ▶ 業種別売上高推移

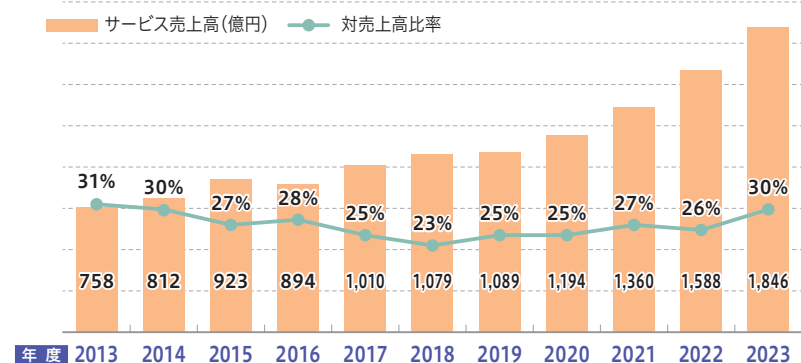
(億円)

業種	年度	2019	2020	2021	2022	2023
自動車及び自動車部品		684	801	590	654	814
エレクトロニクス		1,441	1,370	1,513	2,157	2,035
商業及び小売業		862	1,155	1,551	1,609	1,475
運輸・倉庫		285	235	328	304	248
機械		135	112	115	103	103
化学・薬品		153	183	176	246	251
食品		131	177	200	157	206
鉄鋼・非鉄金属		53	44	35	48	54
精密機器・印刷・事務機		114	87	62	64	43
空港		419	412	437	461	658
その他		153	158	136	190	239
連結調整等		—	—	-25	20	-16
合計		4,436	4,739	5,122	6,019	6,114

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用

## ▶ サービス売上高

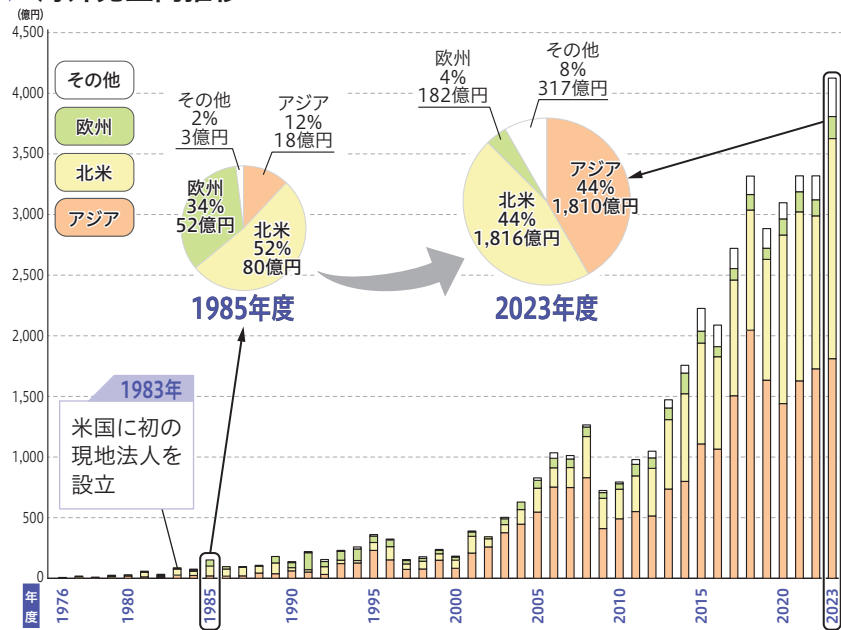
納入したシステム・製品を対象にした保守・メンテナンスなどによる売上高。幅広いサービスメニューを提供しており、安定的な収益につながっています。



## アフターサービス

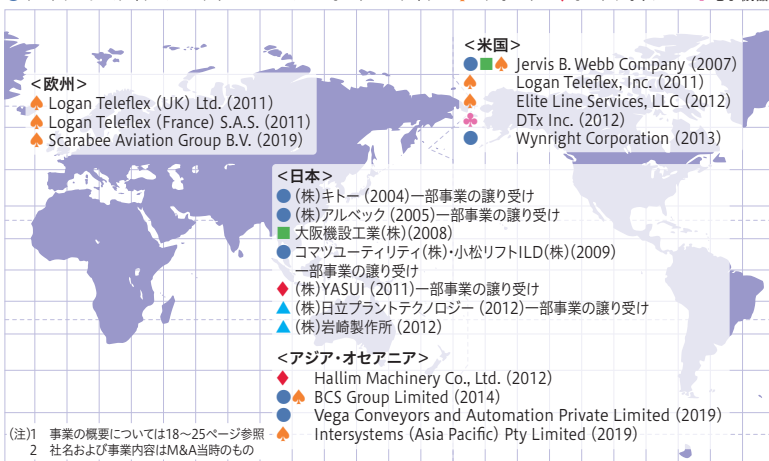
- ・定期点検
- ・システム保守契約
- ・安全技能教育
- ・ファシリティサービス
- ・トラブル対応
- ・パーツ供給
- ・リモートメンテナンス
- ・予約予報システム
- ・オンサイトサービス
- ・改造、リニューアル

## ▶ 海外売上高推移



## ▶ M&amp;Aによる事業領域拡大(2000年以降)

●インフラロジスティクス ▲グリーンルーム ■オートモーティブ ▲エアポート ◆オートウォッシュ ◆電子機器



## ▶ 地域別売上高推移

## ● 日本

eコマース向けシステムの需要が拡大しており、大型の案件が増えています。自動車を含む製造業や、流通業への豊富な納入実績があり、サービス売上高比率が高い市場です。

## ● 北米

1983年に日系自動車メーカーの米国進出に合わせて現地法人を設立し、一般製造業・流通業向けおよび半導体生産ライン向けに事業の幅を広げました。2007年以降はM&Aにより空港向けシステムに進出。今後は、一般製造業・流通業向け、空港向けシステムの売上、収益性の向上を目指します。

## ● アジア

海外売上高の44%を占めています。従来は、半導体・液晶生産ライン向け(中国・韓国・台湾など)、自動車生産ライン向け(中国・韓国・タイ・インドネシアなど)が中心でしたが、アジアの経済発展により、今後は一般製造業・流通業向けの需要が期待されています。

## ● 欧州

一般製造業・流通業向けシステム、空港向けシステムの保守、メンテナンスサービスなどを行っています。

## ● 中南米

自動車生産ライン向けシステムが中心です。

(億円)

地域	年度	2019	2020	2021	2022	2023
日本		1,550	1,639	1,827	1,972	2,004
海外		2,886	3,099	3,320	4,025	4,126
北米		996	1,389	1,367	1,521	1,816
		1,634	1,440	1,643	2,102	1,810
	中国	702	595	572	608	857
	韓国	435	433	465	600	391
アジア	台湾	371	305	490	587	283
	その他	125	104	114	305	277
欧州		92	133	158	172	182
中南米		62	41	52	62	106
その他		99	93	99	166	211
連結調整等		—	—	-25	20	-16
合計		4,436	4,739	5,122	6,019	6,114
海外売上高比率		65%	65%	65%	67%	67%

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用



東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)

単元株数:100株

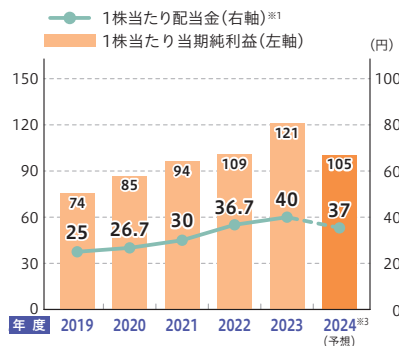
(円)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
1株当たり当期純利益	74	85	94	109	121
1株当たり純資産	616	680	769	878	966
株価純資産倍率(倍)	3.7	5.3	3.8	2.8	3.7
株価収益率(倍)	30.7	42.2	30.9	22.4	29.5
1株当たり配当金 <sup>※1</sup>	25	26.7	30	36.7	40
配当性向(%)	33.6	31.1	31.6	33.6	32.9
期末株価	2,283	3,613	2,930	2,443	3,584
株主総利回り <sup>※2</sup> (%)	120.2	190.9	156.9	133.4	194.9
TOPIX(配当込み) <sup>※2</sup>	90.5	128.6	131.2	138.8	196.2
期末時価総額(億円)	8,672	13,724	11,129	9,279	13,613
期末発行済株式数(株)	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231
資本金(億円)	318	318	318	318	318

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。2019年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

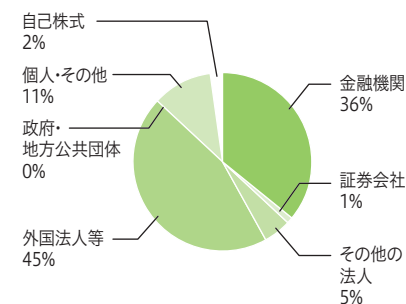
※1 2023年度以前の配当額は、株式分割(2023年4月1日、1株▶3株)からさかのぼって便宜的に計算したものです。

※2 2018年度末を基準として算出



※3 「2024(予想)」は、国内9ヵ月間、海外12ヵ月間の業績予想に基づく

### 所有者別分布状況 (2024年3月31日現在)

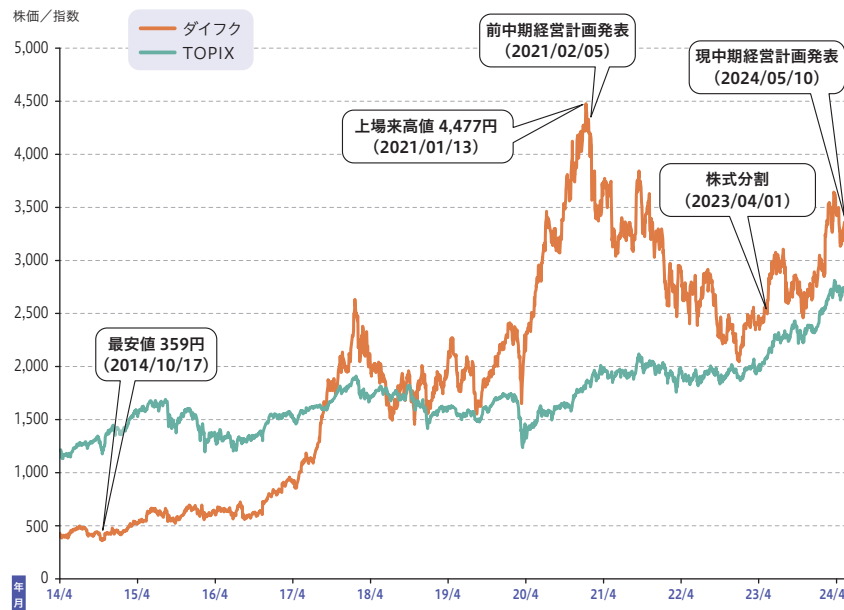


株主数:30,601名

### ▶ 利益配分に関する基本方針

ダイフクは、株主の皆さまに対する利益還元を最重要事項と位置付けています。2027年中期経営計画における連結配当性向は、各年度とも35%以上を目標としています。

### ▶ 過去10年間の株価推移



(注) グラフの当社株価は、2023年4月1日付けで行った普通株式1株につき3株の株式分割を適用した数値です。

### ▶ IRイベント

ダイフクはIR活動の一環として「株主さま日に新たな館見学会」の開催や機関投資家・証券会社アナリスト向けにIR Dayを実施しています。



株主さま日に新たな館見学会



2022年より実施しているIR Day



▶ 経済価値と社会価値の創出に向けて

当社は2024年5月、長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」の策定に伴い、重要課題（マテリアリティ）を見直しました。長期ビジョンの達成に向けてグループで対応すべき重要課題をマテリアリティと定義し、マテリアリティを軸として、戦略・施策・行動計画・KPI（実績評価指標）を具体化しました。

ダイフクが取り組む枠組みとマテリアリティ

枠組み	マテリアリティ
既存事業の進化 新領域への挑戦 次世代事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI等を含む先端技術を活用した開発</li> <li>サービスビジネスの拡充</li> <li>新領域開拓と新規事業創出</li> </ul>
成長を支える仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーション創出に向けた投資・基盤づくり</li> </ul>
業務全体の刷新	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンにおける社会的責任の遂行</li> <li>製品品質、製品安全の追求</li> </ul>
継続した安全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生の徹底</li> </ul>
環境負荷ゼロに向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への対応</li> <li>資源循環の促進</li> <li>自然との共生</li> </ul>
経営体制の強化、管理の高度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンスの強化</li> <li>ステークホルダーコミュニケーションの充足</li> </ul>
組織の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材の確保・育成</li> <li>人権の尊重</li> <li>ダイバーシティ &amp; インクルージョン</li> <li>エンゲージメントの向上</li> </ul>

▶ ダイフク環境ビジョン2050（2024年5月改定）

当社は、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。」と掲げ、3つの重点領域と2030年の環境目標を設定しています。



2030年の環境目標

重点領域	KPI (実績評価指標)	目標
気候変動への対応	自社CO <sub>2</sub> 排出量(スコープ1+2)	60%削減(2018年度比)
	再生可能エネルギー由来の電力比率	80% (日本は2027年に100%達成見込)
	購入した製品・サービスに伴うCO <sub>2</sub> 排出量 (スコープ3 カテゴリ1) 販売した製品の使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量 (スコープ3 カテゴリ11)	30%削減 <sup>*1</sup> (2018年度比)
資源循環の促進	廃棄物の埋立率	1%未満
	水使用量売上高原単位 <sup>*2</sup>	30%削減(2018年度比)
自然との共生	主要拠点 <sup>*3</sup> における生物多様性保全活動実施率	100%
	サステナビリティアクションのグローバル展開	プログラムの拡充・啓発

※1 スコープ3のカテゴリ1およびカテゴリ11合わせた目標

※2 水使用量(千m<sup>3</sup>)/売上高(億円)

※3 従業員数100人以上の拠点

「マテリアリティ」の詳細はこちら  
[www.daifuku.com/jp/sustainability/management/materiality](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/management/materiality)



詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management)

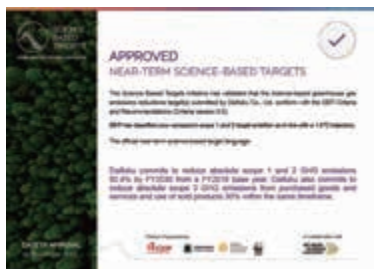
## ▶ 環境への取り組み

### CO<sub>2</sub>削減目標がSBTイニシアティブの認定を取得

2023年11月に当社のCO<sub>2</sub>排出量削減目標が、パリ協定に準じた科学的根拠に基づく目標と認められ、SBT (Science Based Targets) イニシアティブ<sup>※</sup>より認定を取得しました(2024年1月公表)。

「ダイフク環境ビジョン2050」では、「気候変動への対応」を重点領域の一つとして設定し、各拠点における再生可能エネルギーの導入、当社製品の稼働や調達活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減などに取り組んでいます。

※ CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) が共同で設立した国際的な機関。パリ協定が定める水準と整合した科学的根拠に基づく目標を設定していると認められる企業に対して、認定を付与している。



SBTイニシアティブからの認定通知

### 再生可能エネルギーの導入・拡大

2022年11月より、当社国内最大のマザー工場である滋賀事業所内で使用する電力を、すべて再生可能エネルギー由来へと切り替えました。CO<sub>2</sub>排出量に換算すると、当社グループのスコープ1、2の約16%が削減(2018年度比)されます。

2023年度は中国(蘇州)、韓国、タイ、台湾に太陽光発電システムを設置済みで、2024年度以降、米国、インド、インドネシアにおいても設置を計画しており、再生可能エネルギーの導入を拡大しています。



半導体・液晶生産ライン向けシステムの工場(中国・蘇州)の屋根に設置した太陽光発電システム

### 「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度

2012年度にスタートした「DAIFUKUエコアクション」は、環境に対する従業員の自主的な学びを促進・活性化することを目的に、従業員の環境活動に対してポイントを発行、取得したポイントをエコ商品や震災復興商品などに交換できる取り組みです。発行したポイントに応じた金額を外部団体へ寄付しています。2023年度は12,141名が参加し、63,177ポイントを発行しました。

2023年度からは「DAIFUKUサステナビリティアクション」に名称を改め、環境活動に加えて社会貢献活動にも対象を広げて取り組んでいます。

### 生物多様性保全活動「結びプロジェクト」(2014年度～)

緑に囲まれた約120万m<sup>2</sup>の滋賀事業所の敷地には、森・湿地・ため池などの環境に1,000種以上の在来種が生息し、そのうち環境省レッドリストおよび滋賀県レッドデータブックに掲載されている野生生物が70種以上確認されています。この豊かな自然を守るため、プロジェクトの一環として滋賀事業所内に保全地を整備し、生物の保全活動や環境貢献活動、従業員の自然と触れ合う機会づくりなどを行っています。



水質浄化に役立つヨシ刈り活動に多くの従業員が参加(滋賀県内の伊庭内湖・西の湖で実施)



絶滅危惧種のヤマトサンショウウオ 希少種のオグマサナエ

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity)

### ▶ 社外評価

評価機関	2023年度末 評価・スコア
MSCI (アメリカ)	AA
FTSE Russell (イギリス)	4.0
CDP Worldwide (イギリス)	気候変動 : A-
	水セキュリティ : B

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation)

## ▶ 安全

“安全はすべてに優先する”をスローガンに掲げ、社長直轄の安全衛生管理本部主導のもと、安全意識の向上に取り組んでいます。

- ・安全パトロールの実施
- ・安全体感道場の運営
- ・主要サプライヤー向け安全衛生トップセミナー開催 等



社長による現場安全パトロール

## ▶ 人材育成

人材育成を効果的に推進するため、体系的かつ重点的な施策を展開しています。特に、事業のグローバル展開を支える人材の育成、マネジメントの強化を進めています。

- ・階層別研修
- ・キャリア開発研修
- ・グローバル人材育成制度
- ・選抜型研修
- ・海外従業員向け研修 等

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources)

## ▶ 健康

全社横断組織である「こころと体の健康づくり委員会」が健康課題の特定・目標設定や、各種健康イベント、外部講師による講演会、研修を実施しています。

- ・ラインケア／セルフケアセミナー
- ・職場でエクササイズ
- ・健康測定会
- ・ウォーキングイベント 等



外部インストラクターを各職場に招き、軽い運動を実施(写真は小牧事業所)

## ▶ 人権への取り組み

2021年度に「ダイフクグループ人権方針」を策定し、2022年度より人権デュー・ディリジェンスの取り組みとして、当社のサプライチェーンを含め事業活動全般に関係する人権への負の影響を、インタビュー等を通じて特定・評価し、是正・予防する仕組みの構築と運用に取り組んでいます。今後も、「人権の尊重」が事業と組織の持続的な成長における最も重要な責任の一つであると認識し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights)

## ▶ ダイバーシティ&インクルージョン

当社は、経営理念に基づいた多様な人材の雇用と従業員の一人ひとりが「働きがい」と「働きやすさ」を感じ、いきいきと仕事ができる環境の整備を推進しています。

### 女性活躍

女性活躍推進に積極的に取り組むため、子育てと仕事の両立を図りながら能力を十分に発揮して成長することができる支援制度の拡充を行っています。今後は女性の管理職登用の取り組みをより強化していきます。

### 障がい者雇用機会の創出

当社では、2024年4月より引き上げとなった障がい者の法定雇用率2.5%の達成に向け、障がい者雇用の取り組みを積極的に進めています。マザー工場である滋賀事業所では、製造現場における障がい者雇用を促進するため、専門の部署を設置しています。県内の高等養護学校などと提携し、職場実習の受け入れや定期採用を行っています。また、当社独自の「採用前実習→会社適応→職場実習→職場適応」というステップを踏むカリキュラムを実施し、安心して働ける体制を構築しました。

近年はデジタル化による職域拡大が進んでおり、製造現場での業務だけでなく、設計や管理などの事務的な業務に就くケースも増えてきています。



支援担当社員による組立指導



ダイフクグループのウェブサイト  
財務・非財務情報を公開しています。(下表)  
[www.daifuku.com/jp](http://www.daifuku.com/jp)

IR情報

[www.daifuku.com/jp/ir](http://www.daifuku.com/jp/ir)

コーポレートガバナンス

[www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance](http://www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance)

サステナビリティ

[www.daifuku.com/jp/sustainability](http://www.daifuku.com/jp/sustainability)



区分	名称	言語	
		日	英
会社情報	会社案内	✓	✓
サステナビリティ	サステナビリティ報告	✓	✓
IR情報	決算短信／決算説明会資料	✓	✓
	有価証券報告書	✓	✓
	株主総会招集通知	✓	✓
	株主通信	✓	
	ダイフクレポート(統合報告書)	✓	✓
コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス報告書	✓	✓
	ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針	✓	✓
	コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況	✓	✓

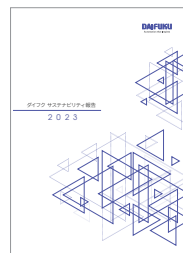
株主総会招集通知



ダイフクレポート



サステナビリティ報告



▶ 基本的な考え方

ダイフクグループは、監査役会設置会社という基本構造のもと、経営の透明性、経営監視・監督機能を高める制度の導入や拡充を機動的に進めています。コーポレートガバナンス・コードを踏まえた「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」を制定し、PDCAのサイクルを回して実効性を継続的に高めています。

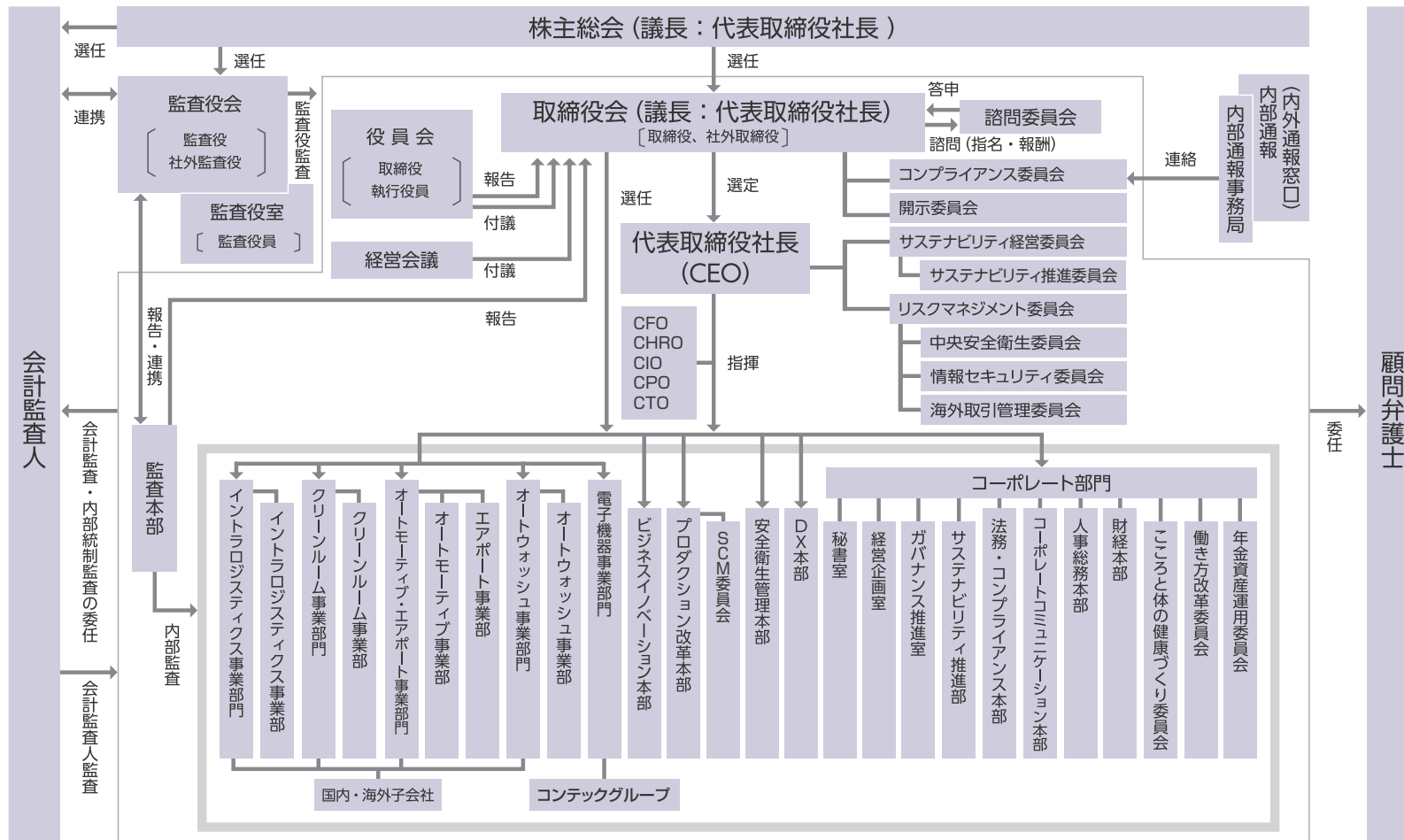
「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」  
[www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance](http://www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance)

▶ コーポレートガバナンス体制の概要 (2024年6月21日現在)

組織形態	監査役会設置会社
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	代表取締役社長(CEO)
取締役の人数	10名(内、社外5名)
取締役会開催回数(2023年度)	定例12回、臨時4回
任意の委員会の有無	有り(指名、報酬に係る諮問委員会)
諮問委員会の構成員・議長	構成員:代表取締役1名以上、社外取締役1名以上を含めた3名以上 議長:社外取締役 回数:年3回以上
監査役的人数	4名(内、社外3名)
監査役会開催回数(2023年度)	定例8回
社外取締役および社外監査役の独立性判断基準	当社の基準を定め、株主総会招集通知などで開示しています。
取締役会の実効性評価	取締役・監査役へのアンケート調査を外部機関に委託。概要をコーポレートガバナンス報告書などで開示しています。
中長期業績に連動する取締役報酬	業績連動型の株式報酬制度である株式給付信託(BBT: Board Benefit Trust)を導入しています。

▶ コーポレートガバナンス体制図

2024年4月更新



2024年度の主な組織改定ポイント

- ・2022年に完全子会社化した株式会社コンテックを中核に「電子機器事業部門」を新設しました。
- ・AIなどの先端技術の導入推進および人材育成、新規事業の創出、既存事業の未来志向の支援により、グループ全体の事業領域の拡大を図るため「ビジネスイノベーション本部」を新設しました。
- ・経済価値と社会価値を統合した経営の視点で、経営計画の実行・進捗管理などを行い経営の高度化促進を支援するため、「経営企画室」をコーポレート部門直下に新設しました。
- ・「サステナビリティ経営委員会」「サステナビリティ推進委員会」「SCM委員会」を新設しました。



▶ 社内取締役



代表取締役社長 (CEO)  
社長執行役員  
下代 博



取締役  
専務執行役員  
Daifuku North America, Inc.  
President and CEO  
佐藤 誠治



取締役  
常務執行役員  
イントロロジスティクス  
事業部門長  
信田 浩志



取締役  
常務執行役員  
CHRO(Chief Human Resource Officer)  
コーポレート部門長  
田久保 秀明



取締役 (新任)  
常務執行役員  
クリーンルーム事業部門長  
クリーンルーム事業部長  
クリーンルーム事業部生産本部長  
寺井 友章

▶ 社外取締役



取締役  
小澤 義昭



取締役  
酒井 峰夫



取締役  
加藤 格



取締役  
金子 圭子



取締役  
Gideon Franklin  
ギディオン・フランクリン

▶ 監査役



常勤監査役  
齊藤 司



社外監査役  
宮島 司



社外監査役  
和田 信雄



社外監査役 (新任)  
箱田 英子

### ▶ 取締役会の構成

当社は、経営環境の変化や当社グループにおける経営方針・経営計画等を考慮して、専門性や経験、多様性等の面から最適な取締役会の構成を検討していきます。

#### 取締役会のスキル・マトリックス

	独立性	専門性・経験						
		企業経営	テクノロジー	財務・会計	法務・リスクマネジメント	営業・マーケティング	グローバル	ESG
下代 博		●			●	●	●	●
佐藤 誠治		●				●	●	
信田 浩志		●	●				●	
田久保 秀明		●		●	●		●	●
寺井 友章		●	●			●	●	
小澤 義昭	✓			●			●	●
酒井 峰夫	✓	●		●			●	●
加藤 格	✓	●			●		●	●
金子 圭子	✓				●		●	●
ギディオン・フランクリン	✓	●		●			●	●

\* 各人の有するスキルのうち主なもの最大5つに「●」印をつけています。  
\* 上記一覧表は、各人の有するすべての知識・経験・能力を表すものではありません。

### ▶ 専務執行役員

三品 康久	CPO (Chief Production Officer) CIO (Chief Information Officer) 滋賀事業所長 プロダクション改革本部長 DX本部長
-------	--

### ▶ 常務執行役員

上本 貴也	オートモーティブ・エアポート事業部門長 エアポート事業部長
権藤 卓也	CTO (Chief Technology Officer) ビジネスイノベーション本部長
西村 章彦	オートモーティブ・エアポート事業部門副事業部門長 オートモーティブ事業部長
鳥谷 則仁	イントラロジスティクス事業部長
日比 徹也	CFO (Chief Financial Officer) コーポレート部門副部門長 財経本部長

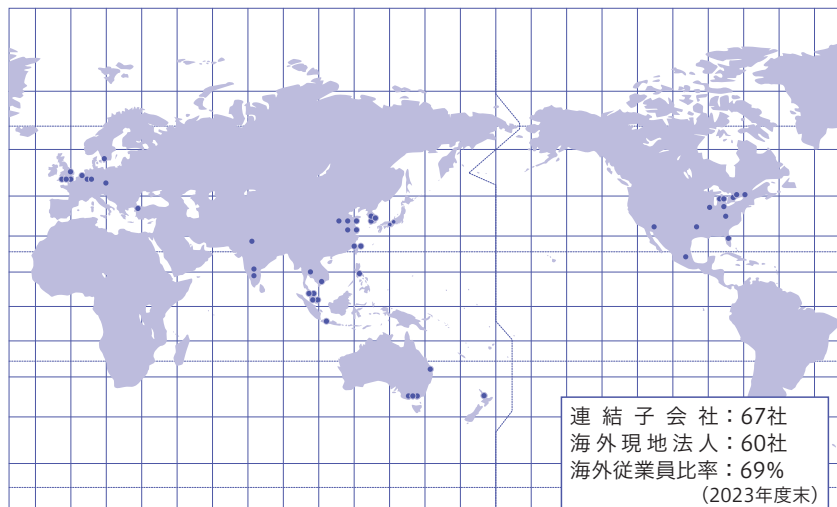
### ▶ 執行役員

喜多 浩明	Daifuku Oceania Limited Chairman
山本 誠二	イントラロジスティクス事業部工事・サービス本部長 安全衛生管理本部長
前田 勉	オートモーティブ事業部営業・サービス本部長 安全衛生管理本部副本部長
園田 篤	クリーンルーム事業部副事業部長 クリーンルーム事業部営業本部長 小牧事業所長
秋葉 博文	コーポレートコミュニケーション本部長
井筒 正幸	エアポート事業部エアポート本部長
田中 崇文	オートウオッシュ事業部門長 オートウオッシュ事業部長 オートウオッシュ事業部生産本部長 株式会社ダイフクプラスモア 代表取締役社長
矢野 準二	イントラロジスティクス事業部生産本部長
西山 和良	電子機器事業部門長 株式会社コンテック 代表取締役社長

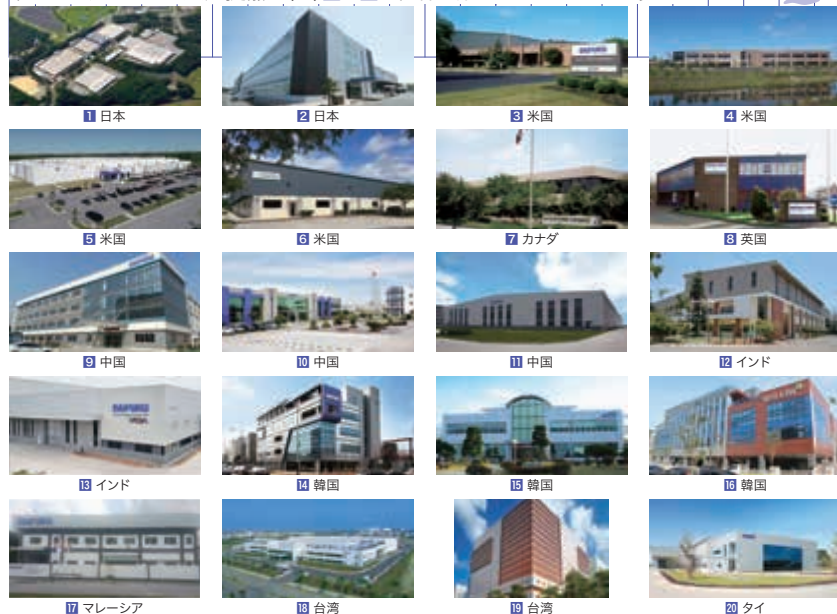
### ▶ 監査役員

高橋 利勝	監査役室長
-------	-------

24の国と地域で事業を展開



ダイフクグループの生産拠点 (注) 1~20の社名・所在地は49~52ページ参照



主要事業所

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>本社(大阪)</b><br/>〒555-0012<br/>大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11<br/>TEL:06-6472-1261(代)</p>     | <p><b>東京本社</b><br/>〒105-0022<br/>東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング<br/>TEL:03-6721-3501(代)</p> |
| <p><b>滋賀事業所</b> ..... 1<br/>〒529-1692<br/>滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225<br/>TEL:0748-53-0321(代)</p> | <p><b>小牧事業所</b> ..... 2<br/>〒485-8653<br/>愛知県小牧市小牧原4-103<br/>TEL:0568-74-1500(代)</p>  |
| <p>営業・サービス拠点 全国約60カ所</p>   |   |

海外支店

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| チェコ支店 ..... ■   | イスタンブール支店 ..... ■ |
| ドイツ支店 ..... ●   | イギリス支店 ..... ●    |
| フィリピン支店 ..... ■ |                   |

国内子会社

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 株式会社コンテック ..... ♣                   | Daifuku Airport Technologies Japan 株式会社 ..... ♠ |
| 株式会社ダイフクプラスモア ..... ◆               | 株式会社スカラベアピーエーショングループ・ジャパン ..... ♠               |
| 株式会社ダイフクビジネスサービス                    |   |
| 株式会社ダイフク・マニュファクチャリング・テクノロジー ..... ● |   |

●イントラロジスティクス ▲クリーンルーム ■オートモーティブ ♠エアポート ◆オートウォッシュ ♣電子機器

## 北中米

- Daifuku North America, Inc.** .....  
Novi, MI, U.S.A.
- Daifuku Automotive America Corporation** ..... 3 ■  
  - ・ Main Office & Plant  
Reynoldsburg, OH, U.S.A.
  - ・ Carlisle Forging Plant  
South Carolina
  - ・ Other offices  
Indiana, Kentucky, Michigan, Tennessee
- Daifuku Cleanroom America Corporation** ..... ▲  
  - ・ Main Office : Chandler, AZ, U.S.A.
  - ・ Oregon Test Center & Office : Oregon
  - ・ Austin Office : Texas
- Daifuku Airport America Corporation** ..... 4 ♠  
  - ・ World Headquarters  
Novi, MI, U.S.A.
  - ・ Canada Branch  
Dorval, Quebec, Canada
  - ・ Plants : Kentucky, Michigan
- Daifuku Services America Corporation** ..... ● ♠  
Carrollton, TX, U.S.A.
- Daifuku Intralogistics America Corporation** ..... 5 ●  
  - ・ World Headquarters  
Hobart, IN, U.S.A.
  - ・ Innovation Center : Illinois
  - ・ Other offices  
Florida, Indiana, Kentucky  
Michigan, Utah
  - ・ Plants : Indiana, Texas
- Contec Americas Inc.** ..... 6 ♣  
Melbourne, FL, U.S.A.

- Daifuku Canada Inc.** ..... ■  
Mississauga, Ontario, Canada
- Daifuku Manufacturing Canada Corporation** ..... 7 ● ● ♠  
Hamilton, Ontario, Canada
- Daifuku Airport Technologies Canada Inc.**  
Montréal, QC, Canada
- Daifuku Services Canada Corporation**  
Toronto, Ontario, Canada
- Daifuku de México, S.A. de C.V.** ..... ■  
Querétaro, Gro., México

## 欧州

- Daifuku Europe GmbH** ..... ●  
  - ・ Main Office  
Moenchengladbach, Germany
  - ・ Denmark Branch : Copenhagen, Denmark
  - ・ Sweden Branch : Helsingborg, Sweden
  - ・ UK Branch : Milton Keynes, U.K.
- Daifuku Automotive U.K. Ltd.** ..... ■  
Milton Keynes, U.K.
- Daifuku Logan Ltd.** ..... 8 ♠  
  - ・ Main Office : Hull, U.K.
  - ・ France Branch : Alfortville, France
- Scarabee Aviation Group B.V.** ..... ♠  
Hoofddorp, The Netherlands

## アジア・オセアニア

- BCS Airport Systems Pty. Ltd.** ..... ♠  
Hallam, VIC, Australia
- BCS Logistics Solutions Pty. Ltd.** ..... ●  
Hallam, VIC, Australia
- BCS Infrastructure Support Pty. Ltd.** ..... ● ♠  
Hallam, VIC, Australia
- Intersystems (Asia Pacific) Pty. Ltd.** ..... ♠  
Hallam, VIC, Australia
- 大福 (中国) 有限公司**  
中国・上海
- 大福 (中国) 自動化設備有限公司** ..... 9 ■  
  - ・ 本社 : 中国・江蘇省常熟
  - ・ 分公司 : 北京、長春、重慶、広州、天津、武漢
  - ・ 事務所 : 南沙、泰達、鄭州
- 大福 (中国) 物流設備有限公司** ..... 10 ●  
  - ・ 本社 : 中国・上海松江
  - ・ 分公司 : 北京、広州、深圳、無錫
  - ・ 事務所 : 長沙、成都、重慶、杭州、虹橋、南京、寧波、蘇州、太倉、天津、武漢、西安
- 大福自動搬送設備 (蘇州) 有限公司** ..... 11 ▲  
  - ・ 本社・工場 : 中国・江蘇省蘇州
  - ・ 分公司 : 成都、上海、深圳、武漢、西安
- 康泰克 (上海) 信息科技有限公司** ..... ♣  
  - ・ 本社 : 中国・上海
  - ・ 分公司 : 北京
- Daifuku India Private Limited** ..... ■  
  - ・ Main Office : Haryana
  - ・ Other offices : Bengaluru, Gujarat
- Daifuku Manufacturing India Private Ltd.** ..... 12 ■  
Karnataka, India
- Daifuku Intralogistics India Private Limited** ..... 13 ●  
  - ・ Main Office & Plant : Hyderabad, India
  - ・ Mumbai Office : Mumbai
- P.T. Daifuku Indonesia** ..... ● ■  
  - ・ Main Office : Jakarta, Indonesia
  - ・ Deltamas Office : Bekasi

## アジア・オセアニア

<b>Daifuku Korea Co., Ltd.</b> ..... 14 ●■ ・ Main Office / R&D Center Incheon, Korea ・ Incheon Plant: Incheon	<b>Daifuku Mechatronics (Singapore) Pte. Ltd.</b> ..... ●▲ Techplace 1, Singapore
<b>Clean Factomation, Inc.</b> ..... 15 ▲ ・ Main Office Gyeonggi-do, Korea ・ Asan Plant Chungcheongnam-do	<b>Singapore Contec Pte. Ltd.</b> ..... ♣ Techplace 1, Singapore
<b>Hallim Machinery Co., Ltd.</b> ..... 16 ◆ ・ Main Office & Plant Gyeonggi-do, Korea ・ Other offices Busan, Daegu, Daejeon, Gwangju, Seoul	<b>台湾大福高科技設備股份有限公司</b> ..... 18 ●▲ ・ 本社・工場：台湾・台南 ・ 支社：新竹 ・ 工場：台中
<b>Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd.</b> ..... ●■ Selangor D.E., Malaysia	<b>台湾康泰克股份有限公司</b> ..... 19 ♣ 台湾・新北
<b>BCS Integration Solutions Sdn. Bhd.</b> ..... 17 ♠ ・ Main Office Kuala Lumpur, Malaysia ・ Factory Negeri Sembilan	<b>Daifuku (Thailand) Limited</b> ..... 20 ●■ ・ Main Office & Plant (Pinthong) Chonburi, Thailand ・ Bangkok Office: Bangkok ・ Chonburi Plant: Chonburi
<b>Daifuku Oceania Limited</b> ..... ●♠ ・ Main Office: Auckland, NZ ・ Other offices Australia, Canada, Malaysia	<b>Daifuku Intralogistics Vietnam Company Limited</b> ..... ● ・ Main Office: Ho Chi Minh City, Vietnam ・ Hanoi Office: Hanoi

## 業界情報

## ダイフクが加入する主な団体

日本物流システム機器協会 (JIMH)	<a href="http://www.jimh.or.jp">www.jimh.or.jp</a>
日本ロジスティクスシステム協会 (JILS) ・ 年に一度「物流システム機器生産出荷統計」を調査・公表しています。 (本統計は、輸入品やサービスを含みません)	<a href="http://www1.logistics.or.jp">www1.logistics.or.jp</a>

## 日に新たな館

世界最大級のマテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新たな館」。自社で開発・製造した最先端のマテハンシステムのほか、ロジスティクス関連企業の製品も展示しています。

1994年に開館。これまで、世界約90の国と地域から延べ約53万人のお客さまにご来館いただいています。最新システム・機器の大規模な入れ替えを行い、2022年6月にリニューアルオープンしました。

専任スタッフが製品の機能・特長のほか、納入事例や現場での活用方法などを紹介します(日本語、英語、中国語、韓国語に対応)。

## 日に新たな館

〒529-1692  
滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225  
ダイフク滋賀事業所内

## アクセス

JR米原駅、JR近江八幡駅から  
シャトルバス(要予約)



## 施設概要

- ・ 建物面積 6,049m<sup>2</sup>
- ・ 延べ床面積 1万9,482m<sup>2</sup>
- ・ 開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)
- ・ 開館時間 AM9:00～PM4:30
- ・ 見学時間 AM9:50～PM3:15(時間帯によるコース制)  
(注)開館日、開館時間、見学時間は変更になる場合があります。
- ・ お申込み ウェブサイトをご利用ください(完全予約制)。  
[www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan](http://www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan)  
(注)会社・団体を対象とした展示場のため、個人、同業者の来館はご遠慮いただいています。

